Eco-life Friends
エコライフ　ふれんず

つくばエコライフフレンズ広報誌　　発行者 宮澤伸一

19 号　2010.01.01 発行　　プリムラ

- エコプロダクツ 2009 で活動を紹介　P1
- 自転車のまちワークショップ　P3
- キャンドルナイト　P5
- 学生メンバーの山本君が受賞　P6
- わが家の CO2 削減作戦（19）プリウスの燃費　P7
- 目から鱗（19）朝風呂は贅沢か　P8

エコプロダクツ2009で活動を紹介

2009 年 12 月 10 日から 12 日の 3 日間、東京ビックサイトで「エコプロダクツ 2009」が開催されました。企業、官公庁、NPO・NGO、教育機関など多彩な出展者が集まり、あらゆる分野の環境関連商品（エコプロダクツ・サービス）を提示して、環境への取り組みを紹介しました。今年度の来場者数は 182,510 人を数え、昨年度よりも約 9000 人増加しました。環境ビジネスへの関心の高まりがうかがえます。

筑波大学からは、「筑波大学“3E”環境コミュニケーションラボ」のブースでアイディア商品の紹介・PR を行いました。乾布摩擦エクササイズ「カンフー摩擦」の体を使ったステージプレゼンテーションや、ご当地ヒーロー「イバライガー」の登場など、他の大学とは一線を画したプロモーションで注目を集めました。

キャンドルナイトの企画と合わせて、つくばエコライフフレンズの提案している「廃食油そのままキャンドル」もこのブースで紹介し、芯ホルダーの販売も致しました。ブースに来場された方の中には、キャンドルの灯る映像に足を止める方も多く、なかには芯ホルダーをまとめ買いするお客さんもいらっしゃいました。

企業のブースでは、環境と直接関係する、エネルギー・化学関係の企業だけでなく証券、通信、教育関連など、多種の企業がそれぞれ異なる視点で企業の環境対策アピールを行いました。それぞれの立場から、現在の問題点やその企業に求められる環境対策を模索するあり方を見ることが出来ました。

見所はまだまだありました。低炭素社会を目指す自治体の取り組みを紹介するブースでは、環境配慮型の先進的な都市モデルに関する展示が行われました。ここつくば市も、田園都市としての「つくば環境スタイル」の取り組みを紹介しました。また、まちづくりに特色のある活動をしている農村の紹介、「人にも地球にも優しい住まい方」の提案、森林づくりの活動、エコごはんや雑貨など、多種多様な視点でエコに関するアピールが行われていました。

感想として、環境問題という、それこそ全世界的な問題に直面せざるを得ない状況の中で、いかに培ってきた技術と昔ながらの知恵をフルに活用するかといった試行錯誤が見えて非常に興味深かったです。企業が大々的に行っている PR と草の根で行っている活動が一堂に会しているわけですから、参加した側はあちこち見て回

るだけで多様な視点で物事を見ることが出来ます。

また、児童向けの環境教育・体験学習も盛んに行われていて、社会科見学に来ている学校も数多くありました。これからの時代を生きるためには、環境問題といかに関わってゆくかが最重要の課題となるでしょう。そのためにも、正しい知識と環境に対する態度を身につけるための環境教育は欠かせないものであると思いました。この展示会に参加して、活動全体に人間の住む未来を作りだしてゆくという意思を感じ、非常に勇気づけられた思いがあります。

自転車のまちつくば
ワークショップ

2009 年 12 月 19 日、谷田部市民ホール会議室にて自転車のまち第 2 回ワークショップが開催され、エコライフフレンズから 3 名が参加しました。

① 国土技術政策総合研究所　大脇鉄也氏
「いまなぜ、自転車なのか？いまなぜ、『自転車マップ』なのか？」

② つくば市市長公室研学地区整備推進課　中村和彦氏
自転車のまちつくば基本計画の策定目的と経過、アンケートの中間報告

③ ワークショップ（3 グループに分かれて）
どのようにすれば、快適で安全な自転車利用を促進できるか？
どのような　活動･整備・連携が必要か？

④ 各グループの発表

このうち、③グループ協議について報告します。

【議題１：つくば市内で感じる自転車利用の課題点】
どのグループでも安全の問題が多く取り上げられていた。